

# コフリン教授のご退職に寄せて

大 園 弘

九州国際大学に国際商学部（現、国際関係学部）が開設されたのは平成元年のことであった。それ以来19年の長期に亘り本学の英語教育の重要な一翼を担ってこられたコフリン（David Anthony Coughlin）教授が、本年（2008年）3月末をもって定年によるご退職の節目を迎えられた。独特のユーモア感覚と温厚なその人柄によって、多くの教職員と学生たちの信頼を一身に集めてこられたコフリン教授のご退職に際し、同教授のご経歴と近況の紹介をもって、ご退職の祝辞にかえさせていただきたい。

コフリン教授は、1937年11月9日、米国カリフォルニア州に誕生された。サンタクララ大学をご卒業後、同州の小学校で4年間教鞭を執られたのち、1970年（33歳）ご来日。翌71年から4年間、早稲田大学文学部、聖心女子大学付属専



2008年8月、夏期英語合宿で（次頁も）

修学校において外国人教師を務められた。74年、孝子夫人とご結婚。その後、北九州大学（現、北九州市立大学）に赴任され、同大学に13年間籍を置かれたのち、国際商学部の開設と同時に九州国際大学の専任教員（助教授、93年教授昇進）となら



れた。爾来、定年退職を迎えられるまでの19年間、本学では「異文化コミュニケーション論」、「Speech & Discussion」等の重要な科目を担当されるなど、本学の英語教育における貴重な「戦力」・「看板教授」として

ご活躍くださった。在任中のご功績を称え、本年6月19日には、本学より同教授に「名誉教授」の称号が授与された。コフリン教授はこうして通算36年間に及び日本の高等教育機関で教鞭を執られてきた。その期間は、なんとご自身の人生の半分以上を超えるものである。

ご退職後の現在も、コフリン教授のご活躍には特筆すべきものがある。本学に赴任される3年前(1985年)から、日本聖公会小倉イマヌエル教会の牧師として地域社会への奉仕活動を開始されたことは周知のとおりであり、現在も同職にて元気にご活躍中である。教会では、パイプオルガンの優れた奏者としても、地域の人々に広く愛される存在であられる。また、われわれにとって誠に有難いことに、コフリン教授には非常勤講師として、現在もなお、本学の英語教育にご尽力いただいている。また、本年8月末に実施した「夏期英語合宿」にも特別講師としてご参加くださり、さまざまなプログラムを通じて学生らの指導に熱心にあたっていた。本誌に掲載した3枚のスナップ写真はその折に撮影したものである。

日本酒とワインをこよなく愛し、周囲の者とのコミュニケーションを何にも増して大切にされるコフリン教授のお人柄は、前述のとおり、われわれを惹きつけて虜にする魅力に溢れている。ともすれば自己中心的な偏った発想に陥りがちな教員集団の中にあって、コフリン教授の沈着冷静な物腰に一種の「救い」

を一度ならず感じ得たのは、果たして私だけだったであろうか。牧師としての使命をも担われたコフリン教授は、大学という環境の中でも、われわれ愚人に「人生、如何に生きるべきか」を無言のうちにお伝えくださった存在であったと思わずにはいられない。

「夏期英語合宿」でのことである。コフリン教授が学生たちにご自身の携帯電話の待機画面をお見せになり、微笑んでいらした。覗きこんでみると、そこには初孫の帆菜（ハンナ）ちゃん（1歳3ヶ月）の写真が収められていた。合宿でのささやかなひとコマではあったが、幸せに満ち溢れる現在のコフリン教授の日常を垣間見た気がした。人生100年。コフリン教授におかれましては、現在の幸福とご健康を維持されつつ、牧師・教師として尚一層ご活躍くださいますよう、後輩の英語教員一同、心よりお祈り申し上げます。

平成20年9月吉日